

## 第 5 回洋上風力発電ゾーニング協議会 議事概要

日時：令和元年 12 月 12 日（木）13：30～16：00

場所：中央市民センター 研修室

出席者：三宅座長，北澤委員，浦委員，佐野委員，志田委員，山田委員，山本委員，  
向委員，晴山委員，福地委員，阿部委員，小倉委員，嵯峨委員

## 1. 主な議事

○事務局より，第 4 回洋上風力発電ゾーニング協議会の振り返り，今年度スケジュールと到達目標の提示，調査等の実施状況の報告，先進調査の予定について説明を，航空自衛隊より，洋上風力発電に関する報告を行い，協議会メンバーにより意見交換を行った。

### 【説明内容】

- (1) 第 4 回洋上風力発電ゾーニング協議会の振り返り
- (2) 航空自衛隊からの報告について
- (3) 環境省の指摘を受けての今後の方針について
- (4) ヒアリングの実施状況について
- (5) 先進地調査（五島市視察）結果について
- (6) 調査等の実施状況について

## 2. 主な意見等

### 【議事（1）関係】

特になし。

### 【議事（2）関係】

○程度は不明であるが，航空自衛隊が保有する，主に太平洋側にあるレーダーに影響があることが判明している。事業者側が風力発電設備の設置を検討する際に情報を共有いただき，調整や運用検討をしていきたい。

→情報共有し，コミュニケーションをよくとることが大事だと思う。引き続きよろしく願いたい。

### 【議事（3）関係】

○当初に，保全・調整・促進エリアを検討するが促進エリアを決めるのは難しいのではないかと述べたが，今回方針が変わり，再エネ利用法へのスムーズな引き渡しをするために，アウトプットとして導入できそうな場所を決める必要があるのではないかと思った。促進エリアという表現もありうるのではないか。

→今後の議論の結果になるが，導入できそうなエリアが見いだせないと次のスキームに入れないので，引き続き検討したい。

○このゾーニング事業で，この協議会の位置づけは何か。ステークホルダーにはならないのか。委員の中で合意形成を図っていく必要があるのか。そのあたりがはっきりしていない。

- この協議会はステークホルダーで形成されており、ステークホルダーの合意形成の場であることは間違いない。しかし、この場では議論できない主体が様々あるので、その他の方々の意見をワークショップで取り込み、協議会で合意を得てパブリックコメントを行うイメージである。
- 漁業者について力を入れてもらっているのがありがたいと思うが、重ねて願います。ゾーニングの場所によっては、漁船漁業者だけでなく、採貝藻や定置網なども関わってくるため、一部の人のみにならないよう他にも配慮いただきたい。
- 多方面からそのようにアドバイスいただいている。漁船漁業者協議会以外にも、定置の組合、地先の生産部などとも協議をする必要があると考えている。
- ゾーンごとの合意形成先・ステークホルダーが今後整理されていくと思うので、足りないところなどご意見いただきたい。また、ヒアリングに伺った際は助言をお願いしたい。

#### 【議事（4）関係】

- 北部太平洋まき網漁業協同組合連合会（以下、「北まき」とする。）の操業エリアはゾーン④に当たるのか。ゾーン③配慮事項のまき網は北まき以外になるのか。
- まき網は北まきが対象となるが、そのほかにもあるか確認する。
- エリア分けは、漁協や北まきなどステークホルダーごとにしてはどうか。話がしやすいと思う。
- 色々な観点がある。意見をいただきながら、分け方を再検討する。
- 北まきはイナダを 100m 以浅で漁獲しているとのことだが、漁をする深さは漁法によるのか。その場合ステークホルダーになり得るということか。
- おそらくそうである。魚がいるところで漁をするので、100m より浅いところに入ることもあるようだ。詳しくヒアリングして実際の漁場を調べる必要がある。
- 銚子沖の洋上風力発電計画が再エネ促進法の有望海域に選ばれて配慮書が出ていると思うが、北まきがステークホルダーになっているか調べてみるとよい。
- 確認する。
- 北まきと漁船漁業者協議会をヒアリング先に指定した理由は、大臣許可については大中型イカ釣りやそびきも確認した方がよいのではないかと。
- 2 団体のみということだけでなく、これから行っていく。大臣許可については様々な団体があり把握しきれていない。他にもあれば教えて欲しい。環境省の要請もあり、地先については今後も様々な主体にヒアリング・報告を行っていく。
- 久慈地域エネルギー(株)について、電気料金削減や地産地消を目指しているとのことだが、実際に可能か。既存の送電線に入れば分けられないと思う。久慈市内に風力発電をたくさん作れば電気料金が安くなると久慈市民に受け止められないか。
- 久慈地域エネルギー(株)の取り組みの一つとして紹介したもので、久慈地域エネルギー(株)が小売事業者として経営努力で単価を下げる、ということである。地域循環は、市内の 6 社と久慈市が出資しており、電気料金や収益の一部寄付により市内で経済が循環する仕組みである。本年度は久慈市に 200 万円寄付をいただき、子育て支援に充てる取り組みもしている。直接的なメリットではないが、久慈市及び近隣市町村と連携協定を結んだ横浜市への供給もできればと思う。また、久慈市では二酸化炭素実質ゼロ宣言もしており、地域エネルギーがさらに進む中で洋上風力発電も実現に向けていくのが理想の姿だと思い検討している。地元の意識醸成も図

りながらやっていきたい。

- 久慈地域エネルギー(株)のご意見は大事なことである。一番難しい漁業者との関わりが実現できれば本当に地域として進んでいけると思う。共生の名のもとに搾取されるシステムは変えていかないといけない。いかに地元経済の循環につなげるかをしっかり考えてなければならない。漁業者からも、気になることがあれば随時アドバイスいただきたい。

#### 【議事 (5) 関係】

- 五島市の洋上風力ファームの規模と完成スケジュールを教えて欲しい。  
→2MW が 10 基となる。環境影響評価は終了している。再エネ海域利用法の有望地域に選定されている。地元の合意が進んでおり、事業化のハードルはそれほどではないようだ。
- 海外の事例を見れば大型になるのではないか。これまでの経緯で 2MW ということであるが、規模は相当大きくなるのか。  
→そうだと思う。これから事業化されるものは 10MW クラスが想定される。
- 大きくなるほど建設コストもかかるので回収できるかがカギになる。
- 五島列島であれば、電力の送電網から言えば末端になるのではないか。2MW10 基で電力を使い切れないときはどのように計画しているのか。久慈の場合は盛岡を出て宮古を経由して種市で終わりであり。どう工夫するのだろうかと思った。確認して欲しい。

#### 【議事 (6) 関係】

- 今年 9 月の鳥類調査の狙いは何か。10 月にはやっていないか。  
→シギ・チドリ、オオミズナギドリである。10 月はやっていない。
- ゾーニングにどう活かすか、次回以降に藻場や景観も含め、レイヤの重ね合わせをした案を事務局に示してもらいたい。色分けの仕方、対象種など、合意形成しながら進めないといけないので。鳥類に関して、猛禽類の営巣地は保全エリアで異論はないだろうが、あまりデータがない海側の範囲は、環境省の渡り鳥データなど文献を活用しながらエリアの範囲を検討して欲しい。鳥類が多い場所は、保全でなくとも調整エリアとして、事業をするときに気を付けて調査をしっかりしてもらおう。
- 藻場は保全をしっかりしていくべきではないか。藻場は分布を調査したのではないのか。  
→藻場については全域を確認し、空中写真も見ながらマップを作成した。代表的な場所は潜水で確認している。
- 藻場は漁業にとって非常に大事なものだと思うので、基本的に保全エリアにするとよいのではないか。漁業者からご意見をいただくとよい。
- ミサゴが久慈湾に多いが、年間を通してなのか。同じようなエリアに今カモメがいっぱいいるようだが、ミサゴに問題ないか。  
→ミサゴの繁殖期は春先から夏までなので、問題ない。
- 藻場や風況調査はゾーニングにどう活かすのか。今は NEDO のデータを使用していると思うが。  
→風況は、ゾーニングではなく事業性の情報として、事業者の誘致を見据えて調査をしている。本来は事業者が測定する。陸上でとっているのはキャリブレーションとしてであり、NEDO の風況マップを補正して使用する。藻場は直接風力発電の影響というより、ケーブルの接続など

付帯施設の検討資料となる。地元漁業者と話しをするための基礎資料にもなる。

○ケーブルはどこにあげられそうか。

→藻場があまりない場所ということであれば、湾の中が考えられる。

○景観についての考え方を示してもらった。方向性を絞り込むのはよいと思う。ただし、距離が十分であるかは確認していただきたい。晴れの日が大事である。

→承知した。

○カモメ類はバードストライクを起こしやすいので、ウミネコの集団繁殖地は特に大事である。

また、最近ウミネコが北海道でレッドリストに入ったが、今後全国的に個体数が減っていく可能性がある。ウミネコの分布状況・飛行状況の資料があった方がよい。

→数が多く、ウミネコだけをとらえるのは難しかった。

### 3. その他

○第6回、第7回をそれぞれ1月と2月に開催予定。第6回は、洋上風力発電の勉強会の形式とし、1月の27日の週で調整したい。

以上